

# 校内研修計画

山梨北中学校

## 1 学校課題

本校は平成20年度から「確かな学力の向上をめざす学習指導に関する研究」の研究主題のもとで「確かな学力」の育成をめざして取り組んできました。「平成22年度 全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙」では言語活動に関わる質問の回答から、81.5%の生徒が学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりするのは難しい又はどちらかというとなんとなく考えている状況がみられます。そのため昨年度の研究では特に「全教科、領域を通しての言語活動の取り組み」を通して授業改善に取り組みました。1年間の取り組みの結果、今後とも「自分の意見を言えるようにする指導はこれからも引き続き取り組んでいく必要がある」ことが課題として出されています。以上のように、より一層の言語活動の充実を通して、思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむことが、今山梨北中学校に求められています。

## 2 研究主題

「確かな学力の向上をめざす学習指導に関する研究」  
～言語活動の充実による授業改善～

## 3 主題設定の理由

「これから求められる学力」の観点から  
学校教育法第30条では、学校の目的として

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

が示されました。このように「基礎的・基本的な知識・技能の習得」に加え、「思考力・判断力・表現力等の育成」が重視されました。この「思考力・判断力・表現力等の育成」には、説明や解釈、伝達、表現などの言語活動が重要です。そのため学習指導要領「総則」でも、言語活動の充実が明確に位置づけられており、指導計画の作成等に当たっての配慮事項として、言語環境を整え、言語活動を充実すべきことが明記されました。そして、各教科等においても、それぞれの教科等の特性や指導事項に即しての言語活動が示されました。PISA 調査において日本の生徒の学力について課題があると明確にされた「テキストから情報を取り出し、解釈、熟考・評価し、自分の考えを記述する力」の育成のためには、このような各教科等における言語活動は欠かせないからです。山梨北中では、言語活動の充実による授業改善を図ることを通し、様々な状況や場面に応じ、適切に思考、判断し、表現することができる生徒を育てていきたいと考えます。

平成23年度の校内評価委員会から提案された教育重点から

### ア 学力向上に向けた学習指導の取り組み

- ・わかる授業をめざした授業改善
- ・全教科、領域を通しての言語活動の取り組み
- ・学習に対する意欲の向上と家庭学習の推進

- ### イ 「不登校生徒を減らす取り組み」
- ・生徒理解を基盤とした学級集団づくり
  - ・カウンセリングマインドに基づく教育相談
  - ・不登校生徒への組織的な対応

平成23年度校内研「成果と課題」から

- ・「教科指導研究部」での取り組みでは、研究内容の一層の深まりもありましたが、言語活動では他教科との協力が不可欠であることが確認されています。
- ・「学年指導研究部」での取り組みでは、良い題材を提示できたことと学年全体で綿密な打ち合わせを行いしっかりと連携ができたという教員側の成果と、生徒にとっても人前で自分の考えをまとめて発表する力が少しずつ身についているなどの成果が出されました。今後とも「自分の意見を言えるようにする指導はこれからも引き続き取り組んでいく必要がある」ことが課題として出されています。
- ・「全学年で同じことへの取り組み」「同じ題材での学活・道徳への取り組み」「部活を含めた全教育活動での取り組み」などが提案され、引き続き言語活動への研究をしていくことの必要性が出されています。

#### 4 研究の内容と方法

<u>取り組みの3つの柱</u>	
1	<p>本校生徒のため</p> <p style="padding-left: 2em;">授業改善：全教科全領域における言語活動の充実を図る。</p> <p style="padding-left: 2em;">朝読書，朝学習，山北サポートタイムへの取り組み 他</p>
2	<p>本校の初任者の先生方の育成</p>
3	<p>「初任者研修授業研修会実習校」として，初任者の先生方の育成のため示範授業提供</p> <p>* 示範授業は，教科3回，特別活動を1回提供します。</p>

この3つの柱を念頭に，日々の取り組みや研究授業の授業実践を通して研究主題をさらに深めたいと考えています。全体研究会と各部会（教科指導研究会・学年指導研究会）での取り組みを行います。

##### 【全体研究会】

学校課題，学校経営方針をふまえ，言語活動に関する研究で「めざす生徒像」を設定する。

各教科から発表される「取り組みのポイント・取り組み内容」及び指導案を全員で検討する。

各研究授業での生徒の発表の様子を全員で観察し，成果と共通の課題を考え，互いに学び合う。

##### 【教科指導研究会】

学習指導要領をふまえ，具体的な言語活動の内容を確認後「取り組みのポイント・取り組み内容」を作成する。

「めざす生徒像」に向けて実践する

言語活動を効果的なものにするために各教科で作成する「取り組みのポイント・取り組み内容」をもとに，生徒の「説明する力」が育つ取り組みを普通の授業において行う。

##### 【学年指導研究会】

「研究でめざす生徒像」に向けて毎日の生活において取り組む。（日常生活における実践）

「説明する力」のような言語活動を仕組んだ道徳，学活の時間を活用した研究授業を行い，生徒の発表の様子を全員で観察し，互いに学び合う。

### 年間校内研修計画

研究主任 古屋 浩紀

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	T・C要請
言語活動の充実による授業改善 「初任者研修授業研修会実習校」	英語	辻 純二 教諭	2年	7月	
言語活動の充実による授業改善 「初任者研修授業研修会実習校」	特別活動	倉田憲一 教諭	3年	10月	
言語活動の充実による授業改善	理科	駒井隆浩 教諭	2年	11月	
言語活動の充実による授業改善 「初任者研修授業研修会実習校」	理科	鈴木 学 教諭	1年	11月	
言語活動の充実による授業改善	道徳	中村大介 教諭	1年	10月	
言語活動の充実による授業改善 「初任者研修授業研修会実習校」	体育	大澤祐子 教諭	2年	12月	